



▲招魂社

◀大通りでラジオ体操する子ども達(昭和14年頃。個人蔵)



この付近には、かつて二荒山神社の別当寺である東勝寺がありました。東勝寺が廃寺となり、境内にあった釈迦堂の跡地にできた町としてこの名が付きましました。二荒山神社から延びる丘陵を開いて道を通した当初は「切り通し」とも呼ばれ、ネバ土で歩くのが大変な所でした。明治時代の初め頃「相生町」となりました。この辺りは、規模の大きな商店が軒を並べていて、宇都宮でもっともにぎわっていた場所の一つでした。

時代の移ろいを感じます。寂しく思う時もありますが、歩く機会が減りました。寂しく思う時もありますが、時代の移ろいを感じます。

昭和14・15年ごろの大通りは、まだ交通量が少なく、子どもたちは大通り沿いでラジオ体操をしたり、二荒山神社の庭や二荒山神社下之宮辺りにあった招魂社で遊んだりしていました。また、私が通った中央小学校では、校庭に防空壕を作る工事の最中、宇都宮城内から北へ続く抜け道の跡が発見され、とても驚いたことを思い出します。その後、バンバ通りの仲見世は緑地帯へと姿を変え、その緑地帯も撤去されました。また、魚屋などの小売店も次々と閉店していきました。車の普及で、生活が便利で豊かになった一方、店は郊外へ移転し、まちなかを歩く機会が減りました。寂しく思う時もありますが、時代の移ろいを感じます。



古いまちの呼び名とこぼれ話を紹介します



緑3丁目 細島 浩子さん

はつらつ宮っこ

今、輝いている市民

楽しみながら強くなる

笑顔の勝利

スポーツ少年団 BCファイターズ



■後列 小平慶斗さん(小6)、加藤大空翔さん(小5)、鬼塚一成さん(小5)、熊木海人さん(小5) ■前列 田代陽己さん(小6)、藤田光さん(小6)

スポーツ少年団「BCファイターズ」の6選手が、8月に千葉県で開催された「全日本ジュニアソフトテニス大会」男子ハイ(小学校高学年)団体戦で見事に優勝、BCファイターズとしても2連覇を達成しました。キャプテンの小平慶斗さんは「連覇がかかっていたので、ほっとしました」と振り返ります。さらに、中心選手の小平さん・田代陽己さんペアは、7・8月に大分県で開催された「全日本小学生ソフト

テニス選手権大会」男子個人戦で、栃木県勢としては過去最高の準優勝という成績を収めました。田代さんは「目標はベスト8だったので、結果には驚きました」と振り返ります。

6人がテニスを始めた時期やきっかけはそれぞれ違いますが、共通して「始めてみたら、とにかく面白かった」と話します。6人を指導する五月女純監督も、「練習は朝から夕方までで、遠征も多い。遊ぶ時間もないが、テニス自体が一番面白い遊びで、努力を努力と思わない子が伸びる」と言います。

今後について、6年生の3人は「中学生になって、もっと上のステージを目指したい」、5年生の3人は「来年は3連覇を達成したい」と話します。未来の錦織圭選手を目指すテニス少年たちの今後の活躍に注目です。